

## ねぶた師

ねぶた師（ねぶた職人）は、ねぶたの山車を作る優れた職人のことです。彼らの仕事は通常、祭りが終わった直後に始まり、次の年のねぶたの構想を練り始めます。ねぶた師は初冬にスケッチを用意し、1月から頭や腕、人物像のその他の部分の制作を開始します。5月にはその作品を特別なテントに移動させ、そこでねぶたの山車が組み立てられます。この過程を通じて、ねぶた師は山車の実行委員会と連携して、最終的な制作物がその希望と合致するように仕上げます。

14人前後のねぶた師が山車の制作に取り組んでいます。その大半は普通の会社員としての仕事を持ち、パートタイムでねぶたの制作を行っています。ねぶた師は1つの山車だけを制作するわけではありません。中には同時に複数の山車を制作する人もいます。それぞれの山車は異なっており、独自の色や素材が使われています。

高い水準の技能が用いられるということは、現在のねぶたの制作が選ばれた僅かな職人によって行われているということの意味ですが、いつもそうであったわけではありません。山車は元々、隣組や祭りを後援するその他の団体のねぶたが大好きな器用なアマチュアの人たちによって作られていました。現在では、ねぶた師として認められるためには、彫刻、書道、絵付けの技能を持った様々な才能を持ったアーティストでなければなりません。ただしこれは、ねぶたの制作が一人でやる仕事であるというわけではありません。ねぶた制作は数多くのアシスタントと一緒に、通常は山車1つにつき約300人と共同で行われます。